

SKYMET主催の「秋の講演会 症例から学ぶ画像診断」の3回シリーズが始まりました。

10月14日（金）はその第1回目で、「胸部単純写真の診断および肺がんCT検診の現状」をテーマに、柿沼龍太郎医師（国立がん研究センター がん予防・検診研究センター 検診開発研究部）を講師にお招きし、医師23人を含む68人が参加しました。

柿沼先生の研究テーマである、肺がんCT健診についての、研究成果と現在まとめているデータの紹介がありました。年齢・性別・喫煙の有無と所見から見た予後の解析など、興味ある内容がありました。

肺がんCT検診受診者における、5mm以上の結節影の出現率と喫煙に関する研究が報告されました。データの解析によって出されたこの値を、どのように考察していくか今後の課題であるとのことでした。

胸部単純写真を読影するときの注意やアドバイスを、Web上のツールを使って説明していただきました。研修医の先生が実際に操作しながら



講演の様子は、DVDにしてあります。貸し出し希望の方は、SKYMETまで。



ら、アドバイスをいただきました。また、見落としやすい部位やその背景についても、3D画像を示しながら解説していただきました。参加者からは、この読影のポイントに多くの時間を使ってほしかったという感想が出されていました。

ちなみに柿沼先生は、埼玉協同病院の開設期に在職されていた先生で、懐かしさに先生の顔を見に来た職員もいました。

今後の「講演会」は、実践的内容に趣を置いた内容にしていきたいと思います。次回以降もぜひご参加ください。